

「閉塞性大腸癌に対する bridge to surgery の治療成績についての後ろ向き観察研究」

ご協力をお願い

閉塞性大腸癌に対して、外科的切除を前提にした、自己拡張型金属ステント(SEMS)を用いた閉塞解除処置(bridge to surgery)が普及しつつあります。当院の SEMS 留置後の大腸癌切除の短期治療成績を比較し、安全性について研究します。

2. 実施施設および担当医師

京都第一赤十字病院消化器外科	曾我 耕次(責任研究医師)
京都第一赤十字病院小児外科	出口 英一(分担研究医師)
京都第一赤十字病院小児外科	魚住 祐介(分担研究医師)
舞鶴赤十字病院消化器外科	松原 大樹(分担研究医師)

3. 研究の方法

2016年6月1日から2022年8月31日までに大腸癌手術を施行された723例の方を対象に、臨床病理学的因子について検討します。抽出するデータは、以下の通りです。

① 関連情報: Stage、病理所見、画像所見、臨床病理学的因子など
データベースから(2016年6月1日から2022年8月31日)

② 患者基本情報: 性、年齢、罹病期間、身長、体重など

本研究の対象患者のデータを、所定のフォーマット(パスワード付きエクセルファイル)で一括して管理し、データの解析は京都第一赤十字病院消化器外科にて行います。情報は院内にて厳重に管理され、第三者への提供は致しません。本研究の結果は学会発表・医学論文として公表する予定です。

4. 患者様の利益・不利益(リスク)および同意取得

本研究では、通常診療情報の解析のみを行うもので、患者様への利益も不利益も生じません。本研究への参加に関しては、本掲示をもって文書同意に代えますが、同意いただけない場合は、研究データへの組み入れを取り消しますので、下記までご連絡ください。

5. 事務局・患者問い合わせ窓口

〒605-0981 京都市東山区本町15丁目749番地
京都第一赤十字病院 消化器外科
電話 075-561-1121(代表) Fax 075-561-6308
責任研究医師氏名 曾我 耕次(k-soga.bt@jrc.or.jp)